

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

倉橋中学校区 校番 30 学校名 倉橋小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	貫 主体的に学び 合い、考え、表現 できる子供を育 てる。 「主体的な学び の実現」	組織的な指導改 善・個に応じた支 援を行い、基礎 的・基本的な学 力の確実な定着 を図る。 「日々の授業を 大切にする」 主体的・対話的 で深い学びの実 現に向けた単元 を工夫し、目指す 資質・能力の育 成を図る。 「カリキュラムマッ プに基づく単元 の実行」	組織的な指導改善に係る児童の意識調査の割合は、目標値を上 半年よりさらに上回った。「時間の構造化」、「聴き方レベ ル」の揭示を行い、「授業サイクル」に沿った授業づくりに全教員 で取り組んだ結果である。 2学期末国語・算数テスト(知識・技能)の結果は、国語は目標 値を上回ったが、算数は目標値を若干下回った。基礎学力の定 着に個人差はあるが、「授業サイクル」を意識した授業づくりや 朝の計算タイム、ドリルタイムの継続が基礎学力の向上につな がっていると考えられる。 一方、12月に行った標準学力テストでは、全国平均を上回っ た学級(教科)の割合は58%で目標値をわずかに下回ったもの の、昨年度の33%よりは向上した。国語では漢字や主語・述語 の関係等の語彙力を問う問題に課題がある。算数では「数と計 算」の領域に課題がある。 読書目標達成児童の割合は、目標値を上回った。図書委員会 や子ども司書の主体的な取組や学校司書の活用による読書環 境の充実とともに、読書記録の記入の声かけ、評価により意欲 が高まったためと考える。 「課題発見・解決学習」に係る児童の意識調査の割合は、「表 現」「協働」とともに目標値を達成した。授業では、自分の考えを理 由を付けて発表することはできるようになってきているが、相手 に分かりやすく工夫した発表になっていない。また、「協働」に係 る児童の意識調査では、自分の考えを深めたり広げたりしてい ると感じている児童の割合は高いが、教師との評価に隔たりが あり、本当に力が付いているとは言えない。	引き続き「時間の構造化」の揭示を活用して、「授業サイクル」に沿った授業づくりを行い、「聴き 方レベル」の指導と評価を根気強く行っていく。また、引き続き、朝の計算タイムで計算の反復練習 を行ったり、ドリルタイムや授業の初めや終わりにQubenaを活用したりして、知識・技能の定着 を図る。 標準学力調査の課題と改善策を共有し、課題 克服に向けた授業改善を全学年で進める。漢字・ 言葉・計算などの反復練習やQubena活用による 課題に応じた問題への取組を徹底して基礎学力 を確実に定着させる。 引き続き、朝読書や「すきま読書」の確実な指導 と、学校司書との連携、委員会を活用した児童の 主体的な取組による読書環境の充実を図ってい く。 教師は指導と評価を意識し、常に理由を求め るよう声かけを徹底して行う。また、理由の根拠とな る叙述や資料を示させたり、自分の経験を交えた 発表の仕方を指導したりして相手にわかりやすい 発表の仕方を指導する。 グループワーク、ペアワークの効果的な場の設 定を行い、話し合いの目的の明確化、方法の指導 を行う。また、考えが深まったり広まったりしたこ とを児童・教師共に実感できるように、考えの深まり や広がりが見える板書やワークシートを工夫した り、視点を具体的に示して振り返らせたりする。
**	協働し、自他を 大切にする子供 を育てる。 「社会性・自己 有用感の涵養」	生活目標を意識 し日常化させる。 ※重点項目 ・「自分から挨拶」※ ・「5分前行動」 ・「無言掃除」 ・「あったか言葉・あったか 行動」※ 主体的に他者と かわり認め合 う温かい集団づ くりを行い、自己 有用感を高める。	基本的な生活態度の定着に係る児童アンケートでは、90%以 上の児童が達成できたと肯定的評価をしている。一人ひとりが 生活目標を意識しながら学校生活を送ることができている。 学級で設定した生活目標の達成率は86%と、目標を達成する ことができた。教師の肯定的な声かけや指導により、学級で決 めた目標を意識しながら取り組んでいくことができた。また、目 標を達成した学級を表彰し、賞状を教室に掲示していくことで学 級の目標達成に向けての意欲を高めることもできた。 児童アンケートでは、「学校が楽しい」と感じる児童の割合は目 標値を上回った。 「自分にはよいところがある」「自分のよさは周りから認めら れている」と感じている児童の割合も、目標を達成することができ た。 委員会活動や縦割り班活動を通して、異学年交流や相互評価 ができる場をもつことができた。	今後も、生活目標について、学級の実態に合わ せた取組内容や回数等の数値を設定するよう声 かけを行っていく。教師による積極的な評価とや り切らせる指導により、児童が取組をやり切る達 成感を味わうことができるようになる。 また、目標が達成できた学級を表彰する取組も 継続的にを行い、目標達成に向けての意欲を高め る。 引き続き、「ハートメッセージ」親切さんありがと うボックス」の取組を通して、自分のよさが他の人 から認められる場を設けていく。 また、委員会活動や縦割り班活動を通して、異 学年交流や相互評価ができる場と振り返りをさら に充実させていきたい。
*	健康・安全な生 活づくり、体力つ くりを自ら実行 する子供を育て る。 「自律した生活 基盤づくり」	よりよい生活習 慣を定着させる。 自ら考え「自分の 命は自分で守る」 力と体力を向上 させる。	児童対象の生活習慣アンケート「メディアの時間を守れた児童 の割合」は6月・9月ともに目標値を超えることができた。児童対 象アンケートの実施前に、アンケート結果や課題等を事前指導 することができたことが成果につながった。保護者対象生活習 慣アンケートでは、肯定的評価の割合が目標値を下回った。 防災意識に係る児童アンケートで、倉橋に起こりやすい災害を 理解している児童、災害時に避難する場所・方法を理解してい る児童の割合はどちらも目標値を上回った。小中合同で、地震・ 津波対応の「マイタイムライン」の作成の取組や避難訓練から児 童の防災意識を高められたと考えられる。学習したことと定着と 取組の深化が求められる。 第1回目の結果を受け、取組を進めたところ、第2回目の結果 は、課題の3種目について達成率が74%から79%に上昇した。 新たな課題として取組を進めてきた長座体前屈(柔軟性)も53% から72%に上昇した。体育授業の準備運動で課題を意識した取 組を実施した効果が現われたと考えられる。	課題であるメディアコントロールについて継続的 に指導をしていくことで意識と意欲を高め、児童 自らコントロールする能力を高めていく。またより 良い生活習慣の定着に向けて啓発を定期的に行う などして保護者の協力を得られるようにする。 とるべき避難行動や、災害が起こりやすい場 所、避難するべき場所を児童自身が理解できるよ うに、ねらいを明確にし、異学年や地域の方と交 流し、学び合う学習にする等、防災学習を改善し ていく。 取組により、多くの種目でCランク以上となった。 来年度は、Cランク以上の児童の割合が70%前 後となっている。長座体前屈、50m走、ソフトボ ール投げの3種目にしぼって、体力の向上を図る取 組を計画していく予定である。
業務改善	教職員が力を発 揮し、意欲とやり がいをもって働 くことができるよ うにする。 「働き方改革」	教職員が主体 的・組織的に働く ことができる働き やすい環境づくり を行う。	「時間外勤務が月平均45時間未満の教職員の割合」は目標 値を下回ったが、「児童と向き合う時間が確保されてきた」と感じ る教職員の割合は上半期より向上した。授業時数の進捗状況 を確認しながら、日課時程を工夫し、放課後の時間確保に努め た。また、提出期限等の見える化や会議での提案内容の早目 の起案等、主任のリーダーシップによる分掌部会の機能化を促 し、見通しをもって業務を行うことができるようにした。更に、 Qubenaを全学年で積極的に活用したことが業務改善につな がっていると考える。	引き続き、主任のリーダーシップによる分掌部 会の機能化を促し、見通しをもって業務を行うこ とができるようにする。また、業務改善に係る方策 等を分掌部会で検討することにより、働きやすい 環境づくりに向けた意識を高めたい。来年度はIC Tを活用した会議資料の保存や閲覧等、ペー パーレス化に取り組み、さらに業務の効率化を 図っていききたい。